

学校を飛び出して、
池田高校の先輩取材しよう！

〈先輩の活躍〉

大垣消防組合
消防士・救助隊長 中迫孝行さん



大垣消防組合中消防署で消防司令補として活躍している中迫孝行さんに、仕事の内容や高校での経験についてインタビューしました。

Q：印象に残っている現場は？

大きな災害だった東日本大震災と御嶽山の噴火が印象に残っています。テレビの映像とは違い、現実を目の前にすると言葉では言い表せないほど規模が大きく、実感が湧かない、自分の中で受け入れられないというような現場でした。

消防士というのはこんなものなのかと無力さのようなものを感じました。僕が行った時には、誰も見つけることができなかつたので、結局何をしていたのだろうかと反省するようなこともありました。

Q：仕事をしていく中での苦労は？

何を仕事にしても大変なことは多々あると思います。この仕事は、人の命や財産を守る仕事なので、現場で一生懸命にやっただとしても人の命が助けられないかもしれないとすれば、この仕事としては成り立ちません。なので、どうすればミスをせずにやっていけるかを考えながら訓練をしなければいけないし、訓練を通して現場ではどのように動くかを想定しなければいけません。また、時代が変われば自分たちが使うものも変わっていきます。時代の流れにそった活動をしていく必要があります。最近では、土砂やゲリラ豪雨などの被害が増えてきていますが、そのような環境の変化に対応していくことも一つです。しかし、僕らが100%の力でできたとしても、すべての命が救えるかといえ、そうでもありません。東日本大震災のように力が及ばず、亡くなられる方もみえます。そこから前に進んでいかなければいけないと考えることが大変だと思います。

Q：苦労もある中で、感じられるやりがいなどは？

人の命を助けることができた時や、訓練や勉強を



今、自分に満足してはいけません。常に自分がレベルアップしていけるかを考えることが重要な事だと思います。そうすることで社会に入ってからそれが生かしているのではないかと思います。さまざまな面で言えることですが、新しい事は次々と入ってくるのでそれに対して向き合わなければいけません。好きだ、嫌いだ、というわけではなく全てを受け入れてそれをどうするかと考えることも大切です。自分が苦手だと思う事にも挑戦していくと思います。僕が現場での活動を通して思ったのは、気づける人間になる事がとても大切だということです。例えば、目の前にゴミが落ちています。それを見つけた時にどうするか。知らないふりをする人もいれば、気にもならない人もいます。気づいて捨てに行く人もいます。同じように、何事にも気づいてそれに対して自分はどうするかということに常に考えることです。自分から動けるようになってくると、人に頼らなくても自分で幅を広げていくことができると思います。災害現場では、いつでも危険があるので、私も若い隊員に自分で気づいていかなければいけないというのを伝えていきます。これから、大切な人がきたとして何かに気づいてあげることができなくて喧嘩になってしまうかもしれない。そういつたこともあるので、ちょっとした事にも気づいていく事は消防士だからというわけではなく、人として大切なことだと思います。

Q：高校時代にやっておいてよかったと思うこと、また、後悔していることはありますか？

興味を持ったことには何でも挑戦してきたことがよかったです。大学の時にはバイトも幅広くやっていました。そうすることで知識を増やしてきました。このような事をやってきたおかげで、色々な事に目を向けられるようになりました。

後悔のような思いがあるのは、勉強です。勉強することに対して自分なりのやり方を見出すことができず、勉強自体に興味がないのは大学の卒業間近でした。これだったら、高校の時にももう少し興味を持って取り組んでいった方が良かったのではないかと思います。勉強ができる、できないというわけではなく、物事に対する姿勢として、それができなかったことに少し後悔しています。



現場で生かすことができたときに、達成感を感じられます。また、危険があつて当たり前前の現場なので、いかに安全にやっていくかを考えて、無事に帰ってくる事ができる事もほっと感じられる部分です。

Q：仕事は好きですか？

仕事は好き嫌いでやるものではないと私は思います。好きだからやる、嫌いだからやらないという事ではないと思います。仕事に就いた以上、どういう姿勢で向き合うかが大切で、この仕事に関しては、使命感をもって取り組む事だと思います。

Q：勤務中の一日のスケジュールは？

基本は二十四時間勤務で朝は八時半に出勤して翌日の八時半まで。次のグループがまた翌日の八時半までというように三つのグループで回って勤務しています。朝は消防車などの点検をして、昼は事務仕事や訓練など就いている係やその日の都合によってやることを決めます。夜ごはんを自炊した後、夜の八時半から次の日の七時半までをグループの中でさらに三つに分かれて、仮眠時間を割り振り、交代しながらとっていきます。

Q：チームワークをよくするためにしていることは？

仲良くするには雑談をすることが一番いいのではないかと思います。休憩の時などに、二人だけで話すようになるコミュニケーションが色んなところでとれるようになります。そうすると、相手の好きなことや嫌いなこと、上手くできることなどが理解できるようになります。相手のことを理解したうえで現場に行くと、この場面では相手は苦手なことがあるからこうしようと、現場での判断にもつながることがあります。個人の事を理解し、信頼し合うことがこの仕事において大切なので、冗談交えながらも雑談をすることが一番有効だと思います。

Q：消防士になる決め手となったことは？

公務員という安定した職業だということが一番大きなものではありました。ちょうど就職難というものが多く、勉強も得意な方ではなかったので、体を使つてできるような仕事がいいと思ったのも理由の一つです。一般企業も受けましたが、トータルして考えるとやはりこの仕事が一番、魅力を感じたからです。

Q：高校生に向けて、防災についてやってほしい事などはあるか？

高校生くらいになると状況判断がある程度できるので、一番活発に動けると思っています。なので、各地域で災害弱者と呼ばれる高齢者や小さな子供など、そういった方々を何かがあつた時に、手助けしたり、避難所まで案内したりしてほしいです。また、若い世代の意見が通ることもあるので、ハザードマップを見て危ない箇所を家族や地域などで話していくこともいいと思います。災害について知識を深めていく事で、たくさんの事に気づけます。受け身にならずに積極的にそのような取り組みをしてほしいです。

Q：今、高校生に伝えておきたい事は？

取材・記事・折戸 啓吾



中迫さんのお話の中で様々な事に興味を持った、挑戦してみたりすることが大切であるという話が深く印象に残っています。そうすることで、皆さんの経験ができ、自分の視野を広げることができ、自分の進路につなげていきたいと思います。